

Digital Cinema NOW

194

オスカー候補作品の収支バランスとハリウッドの話題

川上 一郎

さて、今月号ではオスカー賞選考レースでの候補作品について、製作費・撮影スタッフ・撮影日数・ポストプロダクション日数などの詳細を紹介するとともに、米国脚本家組合がストライキに突入する可能性がでてきた背景などについて紹介していく。図1は、候補作品のBudget（製作費：¥133で換算した1億円単位）、Crew（撮影スタッフ：人数）、Shoot（撮影日数）、Post（ポストプロダクション日数）の図である。

表1には、各項目の数値と興業収入（¥133で換算した1億円単位）を示している。

BANSHEES（“The Banshees of

Inisherin”）は、アイルランド西岸のアラン諸島にあるイニシア島を舞台にした2人の生涯の友人を巡る物語である。ALEXA Mini LFによる撮影であり、アイルランドの小島の風景を美しく描写している。

サーチライトピクチャーが制作し、ウォルトディズニスタジオが配給を行っており、製作費は20億円で、撮影スタッフは330名、そして撮影期間はわずか40日、ポストプロダクション作業も250日と短期間で仕上げている。

製作費が20億円に対して、興業収入が64億円であることから、制作側の利益回収は微妙なところである。興行収入の約4割が配給元に入ってくるが、制作側への分

配金は配給経費や広告経費などを差し引かれた後になるので64億円の4割となる25億6千万から、配給会社のウォルトディズニスタジオが配給経費として要求する金額は4割相当とすると、制作側への分配金は10億円程度でしかない。

“Woman Talking”は、孤立した宗教コミュニティの中での女性たちの生活を描いている作品である。使用カメラはPanavision Millennium DXL2でRedcode RAW (8K)で収録を行っている。カナダのトロントで主に撮影されているが、撮影クルーは185人で40日をかけて収録している。

	Budget(億円)	Crew(人)	Shoot(日数)	Post(日数)	Boxoffice(億円)
BANSHEES	27	330	40	250	64
Woman Talking	178	185	40	300	1
TAR	47	285	65	280	35
The FableMans	53	400	60	200	58
All Quiet of the Western Front	27	270	55	450	
Evrything Everywhere All at Once	33	500	40	540	181
Triangle of Sadness	21	450	70	590	33
Elvis	113	875	100	400	376
Top Gun Marverick	226	1,300	170	390	1,941
AVATAR Way of Water	432	2,000	300	1,200	3,010

表-1 オスカー候補作品の収支バランス



図-1 オスカー候補作品の収支バランス

製作費 134 億円に対して、興業収入は 1 億円でしか無いことから、俗に言う“おこげ”作品となる。“TAR”は、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団の初の女性指揮者を主人公とした映画作品であり、マーラーの交響曲第 5 番をライブ録音する舞台で起

きる物語を描いている。ARRI ALEXA65 と ALEXA Mini LF を使用して ARRIRAW で収録している。製作費は 47 億円、撮影クルーは 285 人、撮影日数は 65 日である。興業収入は 35 億円であることから、配給会社からの分配金は 14 億円程度となり、

大赤字の作品である。

“The Fablemans”は、スピルバーグの自叙伝とも言える作品であり、自身が代表を務める Amblin Entertainment が制作している。製作費は 53 億円で、撮影クルーは 400 人で、60 日間の撮影日数である。興行収入は 58 億円であり、配給会社であるユニバーサルピクチャーには 23 億円程度しか作品レンタル料は入ってこないのので、スピルバーグの会社には 10 億円程度しか戻ってこないことになる。もっとも、自身の会社で赤字を出せば、税金対策としては有効に処理できるので全く問題が無いと言える。“All Quiet of the Western Front”は、戦争を描いた文学作品の名作である“西部戦線異状なし”を描いた Netflix 配給の映画作品である。製作費は 27 億円で、撮影クルーは 270 人、撮影日数は 55 日であるが、ポストプロダクションには 450 日を要している。オスカー賞ノミネートでの必須条件には、ロサンゼルス地域で 1 週間以上商業上映があるが興行収入は非公開となっており、かつ、この作品の視聴回数なども非公開であることから、映画興業としての収支バランスは不明である。ただし、オスカーで外国映画作品賞、プロダクションデザイン賞、作曲賞、撮影賞の 4 部門で受賞したことから Netflix としては大成功と言える作品である。

“Everything Everywhere All at Once”は、コインランドリーの女主人を巻き込んだ時空の裂け目による混沌の世界を描いた作品で、オスカーの作品賞、主演女優賞、監督賞、助演女優賞、助演男優賞、演出賞、作曲賞などの 7 部門で受賞した話題作である。33 億円の製作費で、撮影クルーは 500 人、撮影日数は 40 日であるが、ポストプロダクションには 540 日を要している。興業収入は 181 億円であり、制作・配給を行った A24 フィルムズにとっては大当たり作品となった。

“Triangle of Sadness”は、豪華ヨットクルーズに招かれたカップルがトラブルに巻き込まれ漂着した島でのサバイバルを描いた作品である。製作費は 21 億円、撮影クルーは 450 人、撮影日数は 70 日、ポストプロダクションは 590 日もかかっている。興業収入は 33 億円止まりで有る



talked the picket line outside Disney Studios in Burbank, Calif., in 2007, the most recent
xl. Stephanie Diani for The New York Times

図-2 2007年のWGAストでのピケ風景

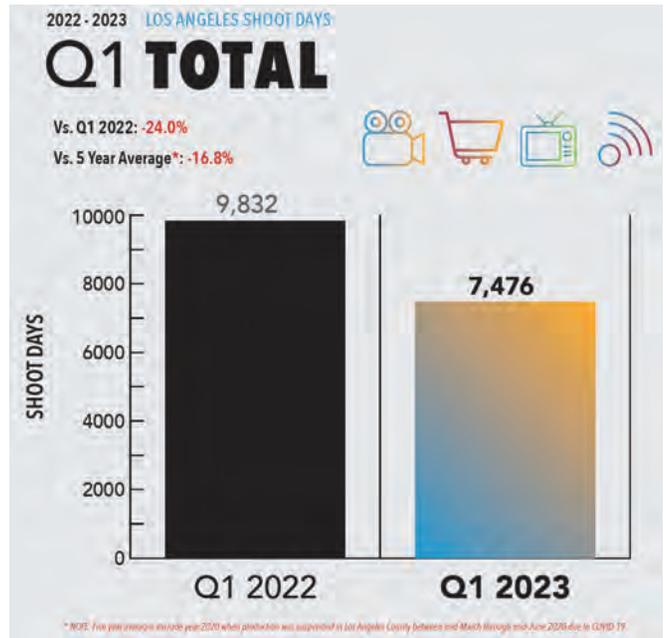


図-3

ために、大赤字の作品となった。“Elvis”は、トムハンクスが演じるマネージャーの目を通して見たエルビス・プレスリーの物語であり、ワーナーブラザーズの制作・配給である。製作費は113億円で、撮影クルーは875人、撮影日数は100日となっている。興業収入は376億円であり、収支はトントンと行ったところである。

“Top Gun Maverick”は、トム・クルーズ自らが戦闘機を操縦する異色の映画であり、サンディエゴ郊外にある米国海軍航空基地にある海軍パイロットの戦術訓練学校を舞台にした大ヒット作の続編である。製作費は226億円、撮影クルーは1,300人、撮影日数は170日である。興業収入は1,941億円をあげており、制作配給共にパラマウントピクチャであることから製作費の3倍以上の収入を得られた大ヒット作である。

“AVATAR Way of Water”は、ジェームズ・キャメロンによる大ヒット作の続編であり、すでに第6作までの制作が行われている。ニュージーランドに水中シーンの3D撮影用巨大プールを備えたスタジオを自作し、実写による3D撮影にこだわって独自のカメラリグも制作した撮影したことから、製作費は実に432億円まで膨らんでいる。撮影クルーは実に2,000人、撮影日数は300日、ポストプロダ

クションは1,200と桁外れの撮影規模となった。興業収入は3,010億円と記録を塗り替える数字をたたき出しており、制作プロダクションとしてもジェームズ・キャメロン自身の制作会社であるLightstorm Entertainmentが加わっていることから製作費を大きく上回る利益が上がっている。この秋には、AVATAR 3も公開が決まっており、ニュージーランドのWellingtonにあるStone Street Studioも続編制作が当分の間忙しそうである。

さて、図2は2007年11月5日から始まり2008年2月12日に終息した全米脚本家組合(Writers Guild of America)のストライキ風景である。バーバンクのディズニースタジオ正門前でWGAのストに連帯を表明した映画テレビ関連労働組合がピケを呼びかけ、連帯を旗印にして阻止行動を行っている風景である。

この時期は、デジタルシネマの規格標準化に絡んでしばしばロサンゼルスに出張していたので、このスト騒ぎは鮮明に記憶に残っている。

米国での映画・テレビおよび脚本家が関与する全てのレセプション・セレモニー等がストの影響により中止せざるを得なくなり、ハリウッド映画業界最大のイベントであるオスカー賞受賞セレモニー直前にスト

中止が宣言された。

この時期はDVD販売シェアが急成長し、全米に数千店規模のDVDショップが林立していたことから、脚本家組合は脚本料の引き上げやDVD販売料価格からの割戻増額を要求していた。

さて、今年の5月1日で現在の脚本家組合と映画制作者連盟との基本契約期間が満了となるために、4月17日に全組合員によるスト権確認の投票を行い98%の賛成で、交渉が決裂した場合のストライキ実施が可決された。

WGAのストライキが始まってしまうと映画テレビ関連の業務が停止してしまうために、カリフォルニア州で50万人と言われていた映画テレビ関連の就労者に影響が出てしまうことになる。

図3に示しているのが、ロサンゼルス地区での撮影ロケーションサービスを行っているFilmLAによる第1四半期での映画・CM・テレビ・その他でのロケーション日数の集計地である。前年比で16.8%の減少となっている総撮影日数も、WGAのスト決行となると、第2四半期は激減となってしまうようであり、ロサンゼルス地域の景気低迷が懸念されるところである

Ichiro Kawakami
デジタル・ルック・ラボ